

サツポロ・シシャモ・ラッコ 身近にあるアイヌ文化

ミナ：お母さん。アイヌ民族のことを取り上げたテレビ番組が、ニュースで問題になっていったんだけど？

母：それはね、アイヌ民族を取り上げた映像を紹介した時、差別する言葉が使われ、誰もおかしいと指摘できなかつたのよ。お母さんも、その場にいたら気づかなかつたと思う。その言葉がアイヌ民族を苦しめてきた言葉だと知らなかつたから。

ミナ：そうなんだ。やっぱり知ることが大切だね。

お母さんは、他にアイヌのことを知っているの？

母：そうねえ。アイヌ民族は、生活に関係する全てのものに神が存在すると考え、必要なものだけとって生活していたことぐらいかな。自然とともに生きるアイヌ民族は素敵だなんて思うわ。

ミナちゃん、もう少し調べてお母さんに教えてよ。

～次の日～

ミナ：お母さん、お母さん！自分の名前はどうかたと調べてみたら、アイヌ語で「笑う」という意味で、びっくりしたよ。

母：へえー。ミナという言葉が、アイヌ語にもあるとは知らなかつたけど、いつも笑顔のあなたにはぴったりね。

ミナ：うん。私も、もっとアイヌのこと知りたいな。まずはあいさつ。イランカラプテ（こんにちは）から始めようって。



※アイヌ語がもともとなっている言葉の一部を紹介します。



○北海道の市町村名のうち、約8割がアイヌ語に由来しています。別・内・幌がつくものも多くあり、それらはアイヌ語の【川】【沢】【大きい】の意味があります。

○アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するために、2019年に制定された「アイヌ新法」では、アイヌ民族を初めて先住民族であると明記し、差別の禁止を定めています。